ふくい

舞鶴市立福井小学校
令和６年１月31日発行
（本年度12号）

児童会
全校で学校をピカピカにしよう。

如月～子ども～キャッチボール

暖冬とは言え、先週は今年最強の寒波が襲来し降雪に見舞われました。1月24日は1日中雪が降り続き、市内の各所で交通渋滞が発生するなど、生活に影響を与えました。一方子ども達は休み時間にグラウンドへ飛び出し、雪遊びを楽しんでいました。雪合戦をしたり雪玉を転がしたり…雪の冷たさなどものともせず、思い思いに遊ぶ姿はとても楽しそうで見ている方も嬉しくなってきます。

1月19日には、メジャーリーガーの大谷翔平選手から全国の小学校にプレゼントされた野球グローブが本校にも届きました。各学級では子ども達が次々にグローブをはめて、その感触を楽しんでいました。「大谷グローブ」と一緒に、舞鶴市内の野球愛好者の方々からバットと軟式野球ボール(１ダース)も届けられました。大谷選手の「野球しようぜ！」の思いに賛同し子ども達が野球に親しむ機会を増やそうと取り組まれました。私が幼い頃は、子どものスポーツと言えば野球が中心でした。私は専門的に野球をした事はありませんが、友達みんなで野球（っぽい事）をして遊びましたし、ボールとグローブを持っている子も多く、キャッチボールは日常的な遊びでした。今は、サッカーやバレーボール、バスケットボール、バドミントン、テニス水泳、体操など様々なスポーツに親しむ事ができ、クラブや団体で専門的な指導を受けながら選手として活躍する子もたくさんいます。時代の変化とともに価値観も多様化し、より自分に合った多種多彩なスポーツ（スポーツだけではありませんが…）を楽しむ事ができます。

キャッチボールは、昔ほどポピュラーな遊びではありませんが、実は「ボール（様々な種類のボール）を投げる・受ける」という運動は、手指や目の機能も多用する事から身体はもちろん神経・脳の発達や発育にも大きく影響するのだそうです。運動能力の基礎を身に付けるのは幼少期だと言われていますが、ボール遊びも乳幼児から楽しめ、はじめは触ったり掴んだり落としたりしながらボールに親しみます。そのうち投げたり受けたりができるようになり、さらに思い通りにボールを操作しようと自分で工夫し始めます。ボール遊びを通して運動技能が高められると同時に、見る力（動くものを追ったり遠近を感じたり…）や空間認知の能力も発達します。また、キャッチボールができるようになると相手との関係を意識し、協調性や思いやりの心も育まれると言われています。ボールを投げたり受けたりする動作は複雑で、すぐに上手にできるわけではありません。しかし腕や手首の使い方、腰や上体の捻り、重心の移動などを使って投げられるようになると、バランス感覚や体幹が鍛えられ運動のぎこちなさがなくなり自然で無理のない動きになっていきます。体の回旋や重心・体重の移動、ステップワーク、目の動きなど様々な運動要素が関連しているキャッチボールは、多くのスポーツの動きに通じる運動だとも言われ、幼少期はまさにその成長時期でもあります。キャッチボールは「野球」の枠を超えて、子どもの体や心を育てるために気軽に始められる「遊び」かも知れません。

「逃げる」２月ですが、計画的にじっくりと学習や行事に取り組みます。保護者や地域の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

校長　波多野　暢　教職員一同